

令和7年度4回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録

日時 令和7年9月24日（水）11時00分～12時30分
場所 事務局5階大会議室
出席者 赤塚、岩崎、大石、大須賀、鈴木、野田、牧田、三輪の各委員
日詰、塩尻、金原、二又、大石、鈴木、佐藤、大島、吉川の各委員
欠席者 加藤、平木の各委員
陪席者 高倉、大橋(Web参加)、栗井の各副学長、飯田、河島の各監事

I 前回議事要録の承認

令和7年度第2回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録（案）及び第3回国立大学法人静岡大学経営協議会（メール審議）議事要録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 最低賃金の改正に伴う関係規程等の一部改正について

佐藤委員から、最低賃金の改正に伴う関係規程等の一部改正について、資料1により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

2 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和7年度）について

佐藤委員から、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和7年度）について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

III 報告事項

1 未来創成ビジョンの実現に向けた重点戦略等について

議長から、未来創成ビジョンの実現に向けた重点戦略等について、資料3により報告があり、続いて、二又委員から、策定の過程について補足説明があった。

（委員から出された意見等）

鈴木委員：資料には期間が示されていないため、いつまでに具体的に何を実施するのか優先順位を明確にし、実行していただきたい。また、途中経過や進捗報告の方法についても教えていただきたい。

二又委員：静岡大学が目指していくことを構成員と共有することを目的としており、いつまでに何を達成するというのではなく、この方針で進めたいということを示すものである。進捗していく中で、より発展していく取組が明確になる。その取組を第5期中期目標・中期計画に盛り込んでいき、何が達成できたかを見えるようにしていきたいと考えている。

- 議 長：18歳人口が急激に減少する2035年までの10年を見据え、実現可能な取組を着実に進めていく。なお、進捗管理については、企画戦略担当理事と学長補佐を中心に確認していく。
- 鈴木委員：ロードマップがないと実行は難しいのではないかと。現状、まず何を取組むのか、また誰がいつまでに実行するのか、年度毎に何をするのかを決めるべきではないかと。
- 議 長：来年度、第5期中期目標・中期計画の策定に向けて動き出す時期であることから、今回示した資料は中期目標・中期計画とリンクしていくものである。
- 岩崎委員：9つの目標に向かって適切に進捗しているか、定期的なチェックが必要。そのため、組織的に進捗を確認するための体制を整えることが求められるのではないかと。
また、浜松医科大学との関係性をどのようにするかが重要な課題。この9つの目標については、まず浜松医科大学に説明することが必要不可欠ではないかと。
- 二又委員：定期的にチェックする組織については重要だと考えている。研究については各教員の研究アクティビティを把握し、全学を挙げて大型の外部資金の獲得を目指したい、教育についても教育担当理事を中心に改革を進めていく。
- 議 長：浜松医科大学への説明について、申入れのタイミングを検討したい。
- 岩崎委員：静岡大学内での総意が固まったタイミングで浜松医科大学へ説明をしていただきたい。
- 野田委員：浜松医科大学との法人統合・大学再編については、現在どのような状況なのか教えていただきたい。
- 議 長：浜松医科大学の渡邊学長とは、これまでに2回ほど面談を行った。浜松医科大学は、これまでと変わらず合意書に基づく履行を主張しており、これに対し本学は、静岡大学を分割せず一つの総合大学として発展することを主張している。現在、両大学の主張には隔たりがあるものの、今後も両大学間の連携を進めていく意向である。静岡県全体の持続的かつ総合的な発展を見据え、総合大学としての多様な連携の実現を目指していきたい。
- 野田委員：静岡大学がビジョンを持ち、浜松医科大学とポジティブな関係を作っていたいただきたい。
- 赤塚委員：未来創成ビジョンの進め方として、学内での意思統一を図ることが不可欠である。その過程において、浜松医科大学との関係性も重要であるが、急ぎ過ぎることなく、まずは静岡大学自体の魅力を高めていくことが重要ではないかと。静岡大学が魅力ある大学であればこそ、より良好な関係構築が可能となると考えられる。
また、大学の在り方や姿は変化していくものであり、その変化について学内で継続的に議論が行われることが、健全な大学の在り方ではないかと。
- 二又委員：浜松医科大学との連携強化に加え、静岡県内の他の高等教育機関との連携も推進する考えのもと、未来創成ビジョンの実現に向けた重点戦略等を策定した。
- 大石委員：既存のリソースをどのように活用していくのが重要であり、現在、

進行しているものと新しく創出されるものを適切に組み合わせ、説得力のある形で進めていただきたい。

議長：未来創成ビジョンの実現に向けた取組として、プロジェクト研究所の拡充があり、同研究所は、静岡大学の特色ある取組の一つで、静岡県内の様々な社会的課題に対して貢献することを期待している。また、同研究所の発展及び研究成果の社会実装に向けて、学内においても様々な支援を検討している。

2 人事院勧告に関する本学教職員給与への対応について

佐藤委員から、人事院勧告に関する本学教職員給与への対応について、資料4により報告があった。

3 令和6事業年度財務諸表の承認について

佐藤委員から、令和6事業年度財務諸表の承認について、資料5により報告があった。

4 令和8年度概算要求について

佐藤委員から、令和8年度概算要求について、資料6により報告があった。

IV 懇談事項

1 カーボンニュートラル推進本部紹介－設立の経緯、特色、取組について－

塩尻委員から、カーボンニュートラル推進本部の設立経緯、特色、取組について、資料7により紹介があった。

(委員から出された意見等)

牧田委員：静岡大学では、社会のために有益なさまざまな取組が行われているが、こうした優れた取組や活動が社会に広く知られていない。大学が果たしている社会的役割をもっと広く知っていただき、十分に理解してもらうことが大切ではないか。

V その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以上